

群 教 七	K01 - 03
	平21.241集

# 『尾瀬学校』を生かした 環境教育の推進を図るための調査研究 — 「事前・事後学習」に視点を当てた 学習計画の作成を通して —

長期研修員 浅川 誠一

## 《研究の概要》

本研究は、県内の『尾瀬学校』実施小・中学校に対して実態調査を行い、現状と課題及び要望を分析・解釈し、『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進を図ることをねらいとしたものである。具体的には、『尾瀬学校』の学習の中核である「事前・事後学習」と「尾瀬当日の学習」との効果的なつながりについての考察を行い、その結果から『尾瀬学校』と環境教育を結び付けた指導の方向性や方策を示した学習計画を作成し、提言した。

**キーワード** 【環境教育 尾瀬学校 事前・事後学習 学習計画】

## I 調査研究の背景と目的

### 1 現状と課題

「ふるさとを学び環境を考える尾瀬学校」を指針に、昨年度、県の事業である『尾瀬学校』が新設された。この事業を活用して、初年度（平成20年度）は108校、児童生徒約8200人、2年目である今年度（平成21年度）は136校、児童生徒10500人余りが尾瀬を訪れ、環境問題や環境保全についての学習に取り組んだ。

初年度『尾瀬学校』実施校への意識調査では、『尾瀬学校』での環境学習を通して、60%以上の子どもたちが、自然保護や環境問題に興味をもち、尾瀬にまた行ってみたいという回答結果を得ている。（県自然環境課尾瀬保全推進室調査：図1）

このことから、『尾瀬学校』を通して、子どもたちの環境に対する意識が高まったという点では、成果は出ているといえる。

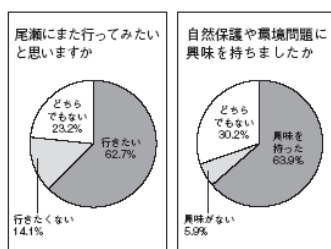


図1 意識調査結果(平成20年度)

しかし、『尾瀬学校』実施校の創意工夫により、充実した学習が進められ、成果が出ている一方、その学習内容は各学校の実情により様々であると考えられる。『尾瀬学校』が新設される以前に実施された平成19年度の県教育委員会調査によると、県内各学校の環境教育の実施状況は、すべての学校で、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動を通して、環境教育にかかわる学習を実施しているという結果が出ている。特に、総合的な学

習の時間での実施率は、公立小学校94%、公立中学校75%である。このような状況下で、新たに『尾瀬学校』を生かした環境教育を各学校が展開していくことは、とても重要であるとともに、そこから様々な課題も生じていると思われる。そこで、『尾瀬学校』と環境教育を結び付けた各実施校の学習指導状況はもちろん、教員の意識なども不明のままであるため、これらの実態についても知っていく必要があると考えられる。

今後、『尾瀬学校』への参加校や参加者の増加が予想される中で、尾瀬を生かした環境教育、ひいては“群馬県ならではの環境教育の推進”が求められてくるとと思われる。そのため、実施校の『尾瀬学校』の「事前学習」と「事後学習」の現状と課題及び要望を見いだし、「尾瀬当日の学習」との効果的なつながりについて把握し、環境教育の推進に結び付けていくことは大きな意義があると考え、調査研究を実施した。

### 2 調査研究の目的

『尾瀬学校』を実施している小・中学校への実態調査を行い、その現状と課題及び要望を分析・解釈し、「尾瀬当日の学習」と「事前・事後学習」を効果的につなげる方向性や方策を示すことで、『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進を図る。

## II 調査研究の内容

### 1 調査研究の基本的な考え方

『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進を図る上で大切なことは、「尾瀬当日の学習」を支える「事前・事後学習」である。そのため、それぞれ

の学習内容ごとに、現状と課題及び要望を詳細に調査し、実態把握を十分に行うことが必要である。そして、これまで取り組んできた環境教育についても実態調査を行い、『尾瀬学校』との関連性について明らかにする。

これらの調査結果を分析・解釈することにより、『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進に向けた具体的な方策を、「尾瀬KAN」（『尾瀬学校』の学習を通して、環境を感じ考え、様々な活動の環を広げていくための学習計画）の作成を通して、提言していきたいと考える。以下に研究構想図示す。（図2）

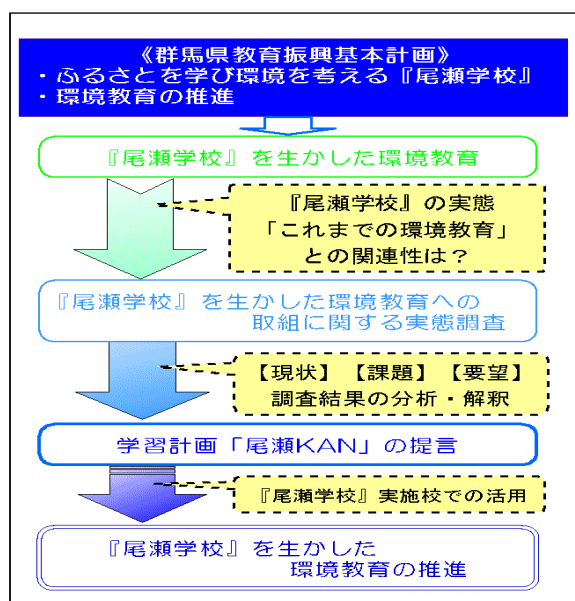


図2 研究構想図

## 2 調査の対象

- ・初年度(108校)と今年度新規(37校)での『尾瀬学校』実施校(計146校)の環境教育担当者及び尾瀬学校主担当者(各1名)
- ・協力校1年生(今年度尾瀬学校実施)  
2年生(初年度尾瀬学校実施)

## 3 調査の内容

『尾瀬学校』と環境教育との結び付けを図るためのデータを得るため、実施校の「これまで取り組んできた環境教育」を調査する。また、『尾瀬学校』の「現状」「課題」「要望」を「事前・尾瀬当日・事後」の三つの学習ごとに調査し、その結果から実施校の取組内容を知り、様々な課題を抱えているであろう実態を明らかにする。要望を通して、新たな改善点も見えてくると考える。さらに、調査対象は狭いが、協力校の1年生と2年生に対して『尾瀬学校』の学習を通じた環境への意識変化を調査することで、その有効性を探る。

## 4 調査の方法

### ・『尾瀬学校』実施校の実態調査

実施校へ8月上旬に調査用紙を電子メールで送付し、調査を依頼した。9、10月まで『尾瀬学校』の学習が行われる学校もあったが、調査結果の分析や学習計画作成における時間的な制約により、8月締め切りとして、調査を実施した。

なお、回答校数・回収率は以下の通りである。

小学校	78校中	66校(回収率84.6%)
中学校	68校中	57校(同83.8%)
全体	146校中	123校(同84.2%)

### ・協力校1、2年生の意識調査

1年生に対して『尾瀬学校』の学習終了直後の7月下旬に意識調査を実施した。2年生においても、『尾瀬学校』実施後およそ1年となる同時期に実施した。

## Ⅲ 調査の実施

### 1 調査の準備

#### (1) 調査項目の選定

##### ①環境教育担当者に対して

基礎データを収集するために、実施校が『尾瀬学校』実施以前に取り組んでいた環境教育について調査する。学習内容や成果・課題を調査することで、環境教育の実態を知る。

##### ②尾瀬学校主担当者に対して

「事前・尾瀬当日・事後」の三つの学習のつながりに重点をおいて実態の把握を行う。また、その学習過程において、他教科との関連、社会教育施設や県の事業との連携・活用状況を調査し、実態を知る。

##### ③協力校1、2年生に対して

1年生へは、『尾瀬学校』実施後、身近な環境への意識変化と環境保全への行動化について調査する。また、2年生へは、昨年度の『尾瀬学校』の学習が実生活に生かされているかどうかを調査する。このことで、昨年度の「事前・尾瀬当日・事後」の学習と実践力への結び付きなど、その有効性を知り、参考資料とする。

#### (2) データの処理方針

実施校の「これまで取り組んできた環境教育」と『尾瀬学校』の実態(現状・課題・要望)を広く分析・解釈し、「事前・尾瀬当日・事後」の三つの学習のつながりに視点を当てた学習計画を作成する。また、その学習過程に環境教育へと結び

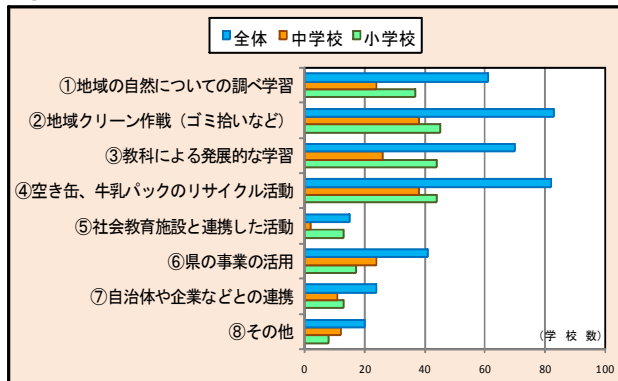
付く社会教育施設や県の事業の活用方法・学習活動例を示していく。さらに、課題や要望に対しての対応策も示し、これらを学習計画「尾瀬KAN」としてまとめ、提言する。

## 2 データの処理と分析

調査項目（抜粋）ごとに、結果の分析を行った。

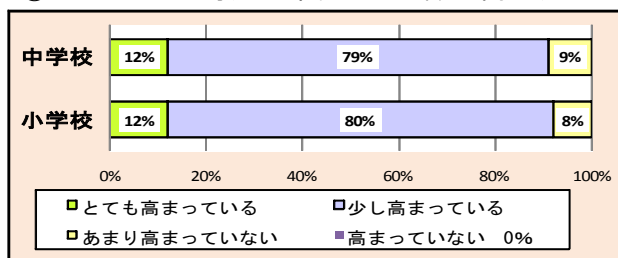
### (1) 「これまでの環境教育」への取組

#### ①学習内容（複数回答）



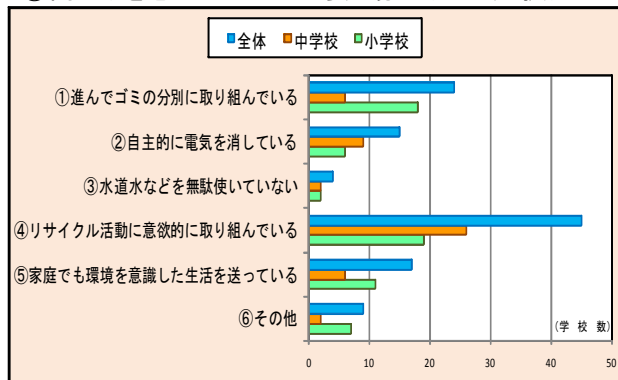
地域の自然についての調べ学習やリサイクル活動、清掃活動といった身近な環境を学習に生かしている学校が多かった。また、各学校が工夫して、様々な学習に取り組んでいることが分かった。

#### ②子どもたちの身近な環境への意識の高まり



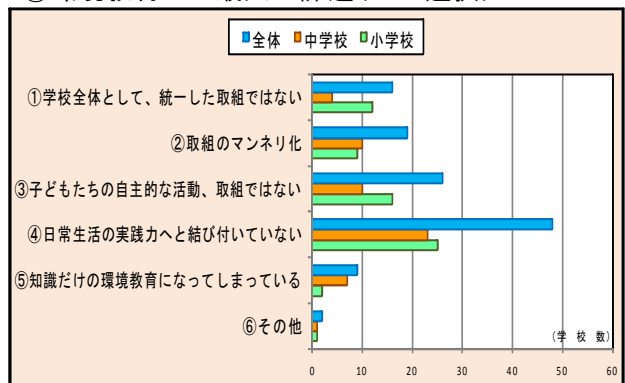
「少し高まっている」を合わせると、90%以上の学校で意識の高まりを感じている。各学校が取り組んでいる環境教育が、子どもたちの意識の高まりに結び付いていることが分かった。

#### ③高まりを感じる子どもの姿・場面（一つ選択）



リサイクル活動やゴミの分別活動など、身近な環境への取組の様子から高まりを見取っている学校が多かった。また、子どもたちは学習の成果を様々な姿で実践していることが分かった。

#### ④環境教育での最大の課題（一つ選択）

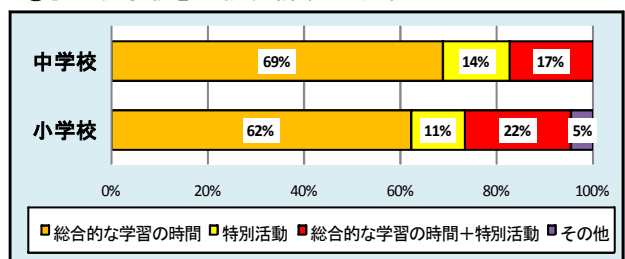


学習内容が実践化へと結び付いていないという回答が多かった。また、取組内容に行き詰まりや改善を感じている学校も多いことが分かった。

#### (2) 『尾瀬学校』を生かした環境教育への取組

##### ○『尾瀬学校』の学習への取組について

##### ①『尾瀬学校』の教育課程の位置付け

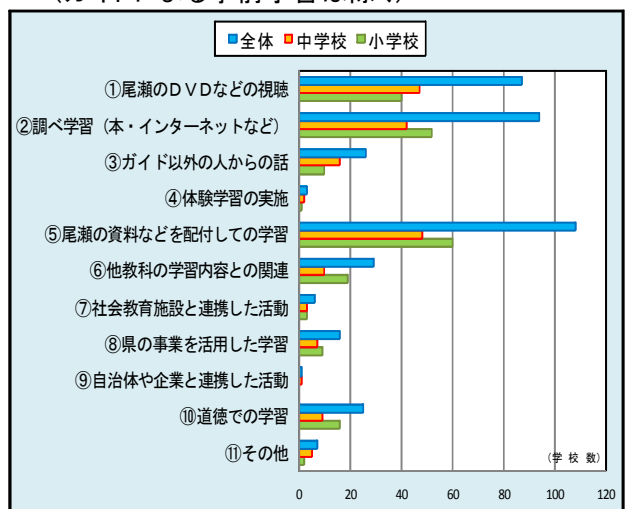


総合的な学習の時間が60%以上であった。事前・事後学習は総合、尾瀬当日の学習は特別活動にと位置付けている学校が20%前後あり時数の配分を行っている学校が一定数あることが分かった。

##### ○「事前学習」について

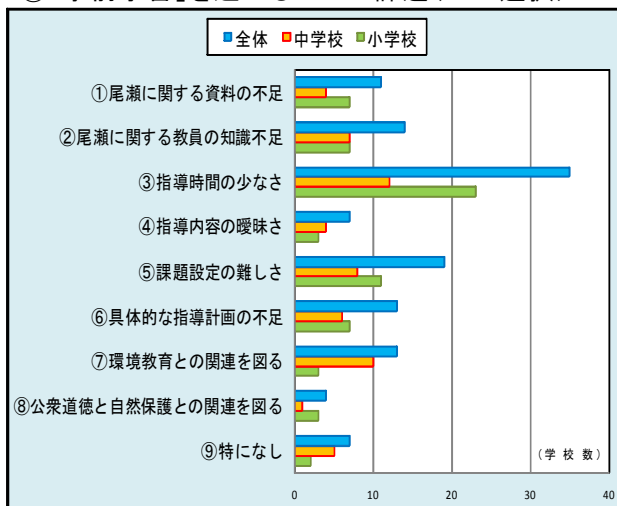
##### ②「事前学習」で取り組んだ学習内容（複数回答）

（ガイドによる事前学習は除く）



多くの学校が尾瀬のDVD視聴や資料を通して、尾瀬についての基礎を学習している。また、総合的な学習の時間での実施校が多いため、課題設定や解決のための調べ学習に取り組んでいる学校が多いことが分かった。

### ③「事前学習」を進める上での課題(一つ選択)



指導時間の少なさを挙げた学校が最も多かった。その他は、課題設定の難しさや環境教育との関連を図ることなど、実際の指導内容・計画を課題としている学校が多いことが分かった。

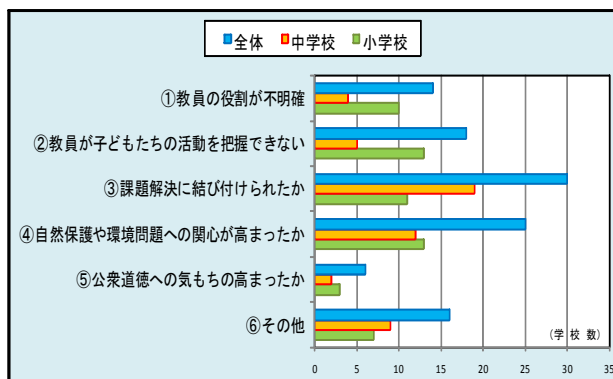
### ④「事前学習」の充実を図るために必要なこと(多数意見順)

- ・資料の充実を図る(ワークシートの作成など)
- ・指導計画、全体計画の確立、指導時間の確保
- ・日常生活との関連、環境教育との結び付き、地域との関連を図る
- ・学習課題(ねらい)をもたせる指導内容の工夫(課題のパターン化を図る)
- ・尾瀬の貴重性の認識(尾瀬の環境保護対策、成り立ち、歴史、現状把握、公衆道徳など)
- ・事前学習時のガイドとの連携及びその充実(実物・資料を提示する、尾瀬の映像を映す、環境問題の話・現状、体験談を伝えるなど)
- ・尾瀬学校当日の担当ガイドとの連携・打合せ
- ・教員の研修
- ・他教科とのかかわりを図る
- ・人材発掘(尾瀬に詳しい人から話を聞く)

最も多かった意見は、尾瀬関係の資料の充実であった。特に、全体の指導計画を含む、具体的な学習指導につながる資料を必要としている学校が多かった。次いで多かった意見は、環境教育との関連を図ることや学習課題のもたせ方であった。これは、前設問課題(②事前学習の課題)と同じであった。環境教育と関連付けた課題を設定するために、様々な学習の充実を図ることが必要であると考えている学校が多いことを裏付けている。また、「事前学習」と「尾瀬当日の学習」で、ガイドと綿密な打合せ・連携を望んでいる学校も多く、ガイドとの連携が重要であることが分かった。

### ○「尾瀬当日の学習」について

### ⑤「尾瀬当日の学習」での課題(一つ選択)



「尾瀬当日の学習」は、ガイドに任せているため、教員が子どもたちの学習の様子を把握できないという実態が見て取れる。その他として、雨天時の対応を挙げた学校が多く、雨天時の学習に不安を抱いていることが分かった。

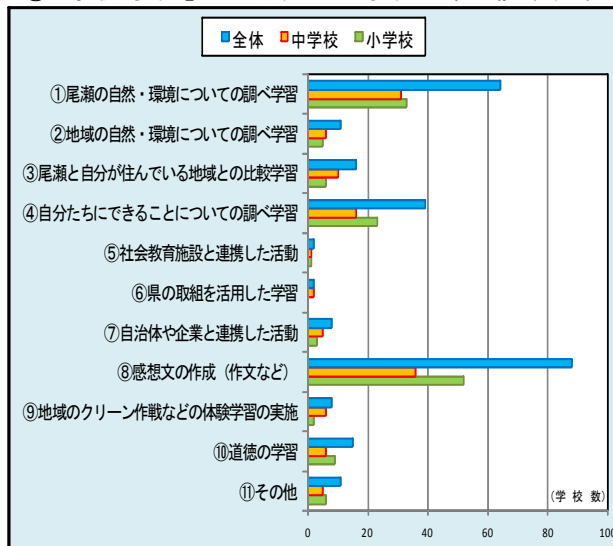
### ⑥「尾瀬当日の学習」の充実を図るために必要なこと(多数意見順)

- ・事前学習の充実(目的意識をもつ、課題設定)
- ・当日のガイドとの連携
- ・当日の流れの確認(開・閉校式の実施の有無、時間設定、十分な時間の確保)
- ・当日の学習内容をまとめる記録用シート、ワークシートの作成
- ・雨天時の対応
- ・ボランティア活動、環境保護活動の実施

「事前学習」の充実を挙げた学校が多く、「当日の学習」の充実には、「事前学習」が重要であることが分かった。また、ここでもガイドとの連携を挙げた学校が多く、「事前・当日の学習」でのガイドとの連携の必要性が分かった。

### ○「事後学習」について

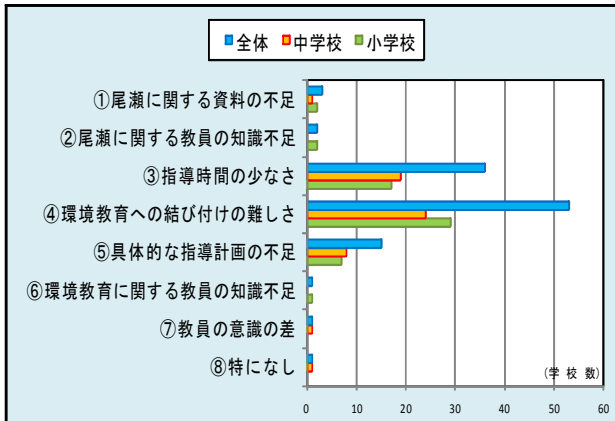
### ⑦「事後学習」で取り組んだ学習内容(複数回答)





感想文や作文が最も多く、次に課題解決学習を進め、その結果を発表する学習であった。様々な学習に取り組んでいるが、その内容は十分広がりをもてず、「尾瀬当日の学習」が「事後学習」に生かしきれていないという実態が分かった。

### ⑧「事後学習」を進める上での課題(一つ選択)



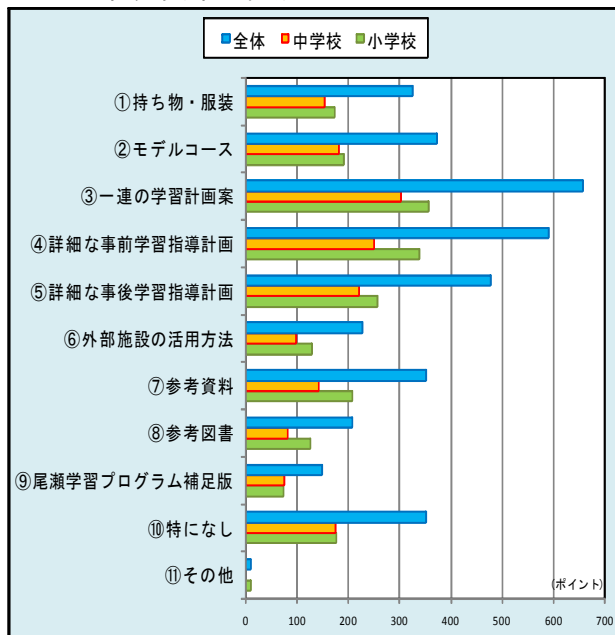
多くの学校が、「尾瀬当日の学習」と環境教育との結び付けの難しさを課題としている。充実した「尾瀬当日の学習」を、「事後学習」に結び付けていくことに苦慮していることが分かった。また、指導時間の少なさを挙げた学校も多く、これは「事前学習」での課題(設問②)とほぼ同様の結果であり、少ない指導時間内で「事後学習」も進めているという実態が分かった。

### ⑨「事後学習」の充実を図るために必要なこと(多数意見順)

- ・実生活、実践力につながる手だてを考える
- ・学習内容や関係資料の充実を図る
- ・指導計画の確立
- ・指導時間の確保
- ・関連(外部)機関との連携を図る
- ・ボランティア活動を実施する
- ・先進校の実践例を活用する
- ・教員の意識の向上を図る
- ・自治体と協力して、節電率や節水率の月ごとの比較に取り組む(ISOなど)
- ・家庭との連携を図る

多くの学校が実践力へとつながるような手だての必要性を挙げていた。そして、そのための身近な環境への具体的な活動を組み入れた指導計画の確立を望んでいることが分かった。「事前」から「尾瀬当日」と進めてきた学習のまとめとして、「事後学習」で外部機関との連携を図ったり、先進校の実践例を活用したりするなど、子どもたちの学習の成果を様々な形で広げ、生かしていきたいと考えている学校が多いことが分かった。

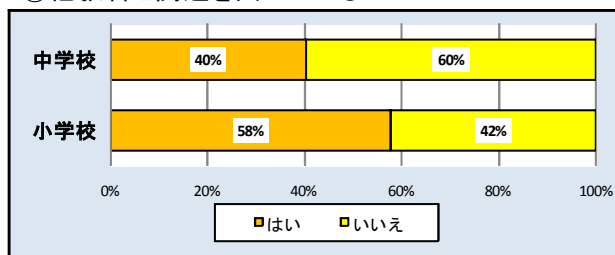
### ⑩「尾瀬学習プログラム」(群馬県教育委員会発行)の内容充実希望箇所の内容充実希望箇所



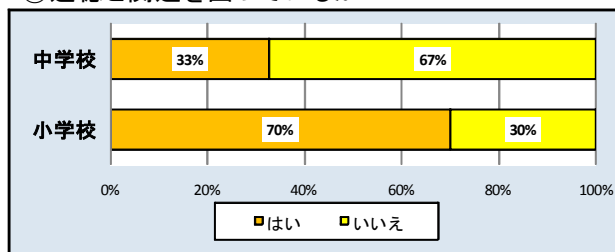
「尾瀬学習プログラム」については、内容も充実していて、ほとんどの実施校が大いに活用している。しかし、設問③と⑧の「事前・事後学習」の充実を図るために必要なこととしても挙げられているように、一連の学習指導計画を希望している学校が多数見られた。また、すべてにわたり、より詳細な内容・資料の充実を望んでいることが分かった。

### ○教科との関連・外部機関の活用について

#### ⑪他教科と関連を図っているか

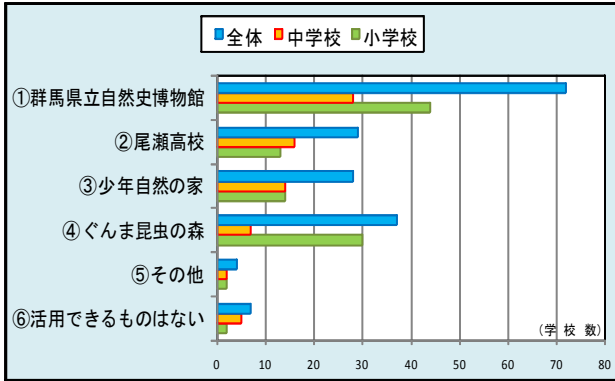


#### ⑫道徳と関連を図っているか



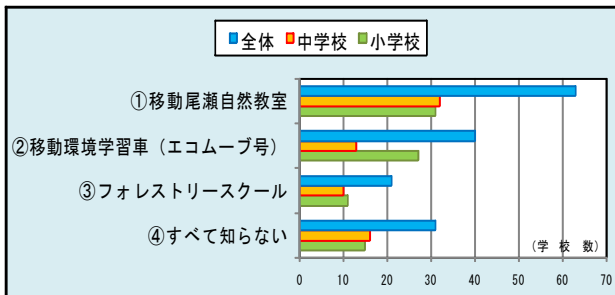
他教科・道徳ともに、小学校の方が中学校よりも関連を図った環境学習に取り組んでおり、中学校では、関連を図った学習が進んでいないことが分かった。小・中学校ともに教科では、理科・社会・国語・音楽の順であり、道徳の内容は、協力・自然愛・公德心を取り上げた学校が多かった。

⑬社会教育施設の活用希望について(複数回答)



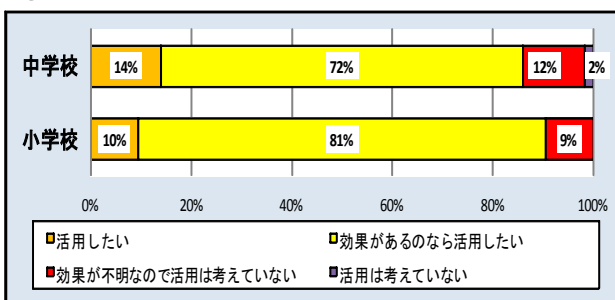
自然史博物館は、既に10校(調査回答校の約8%)の学校に活用されており、また、「事前・事後学習」での有効活用が見込めるという理由から希望する学校が多かった。その他の施設も含め、多くの学校が、施設との連携・活用を望んでいることが分かった。

⑭県の事業の認知度について(複数回答)



県の環境学習事業について、すべて知らないと答えた学校も多く、その認知度はあまり高くないことが分かった。しかしながら、移動尾瀬自然教室は、既に活用している学校が7校(調査回答校の約6%)あり、県の事業の中での認知度は高いことが分かった。

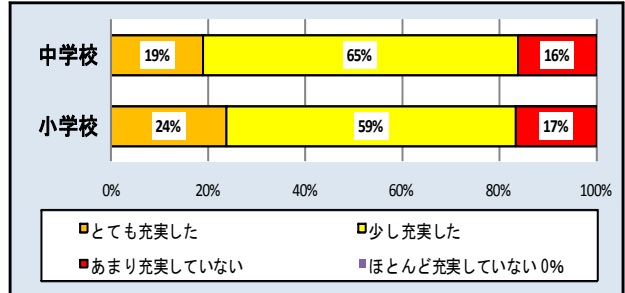
⑮県の事業の活用希望について



教育的効果の期待も含めて、90%前後の学校が活用を希望している。様々な学習機会を通して、『尾瀬学校』の学習を生かしていきたい、環境教育の充実を図っていききたいと考えている学校が多いことが分かった。

○『尾瀬学校』と環境教育との関連について

⑯『尾瀬学校』の実施で、環境教育は充実したか



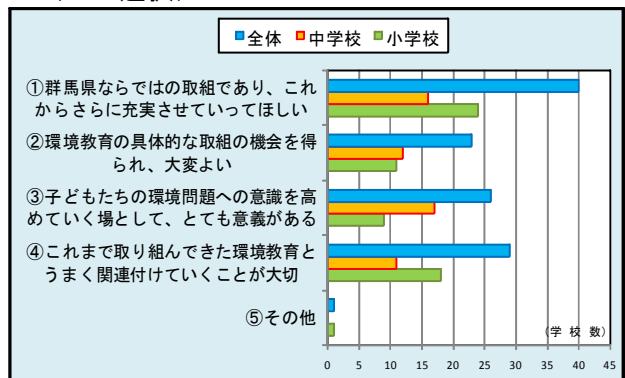
「少し充実した」を合わせると80%以上の学校が「充実した」と回答している。『尾瀬学校』が、多くの学校の環境教育の推進に役立っていることが分かった。

⑰『尾瀬学校』を実施しての成果・課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然保護への理解が増した</li> <li>・自然破壊と人間との関係が分かった</li> <li>・ガイドの説明で尾瀬の環境保護への意識が向上した</li> <li>・目的意識をもった学習が展開できた</li> <li>・行動しようという意識が芽生えた</li> <li>・環境にかかわる活動(これまでの活動)に意欲的に取り組むようになった</li> <li>・ゴミや水処理の理解が深まった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活(実生活)へと結び付かない</li> <li>・地域の自然との関連が図れない</li> <li>・環境教育との関連が難しい</li> <li>・学習指導計画の不備</li> <li>・課題設定の曖昧さ</li> <li>・学年内の学習だけで、広がりをもてない</li> </ul>

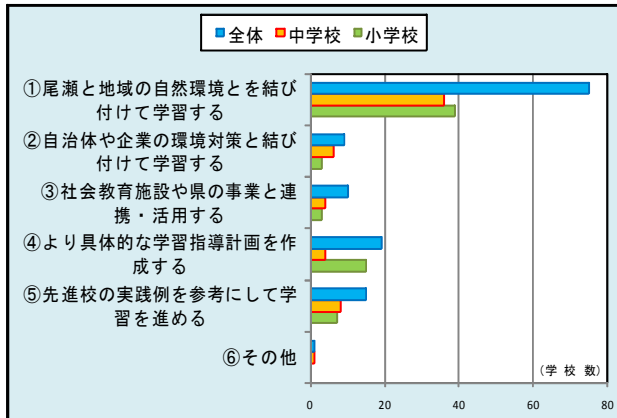
成果として、多くの学校が、子どもたちの環境問題や自然保護への意識の高まりを挙げていた。課題は、学習が実践力へとつながらない点と指導計画が不十分な点であった。これは、(1)「これまでの環境教育への取組」での課題(設問④)と同じであった。

⑱『尾瀬学校』と環境教育の関連についての考え(一つ選択)



『尾瀬学校』のさらなる充実を望んでいる学校が多く、環境教育を進めていく上で『尾瀬学校』を意義ある事業として考えていることが分かった。

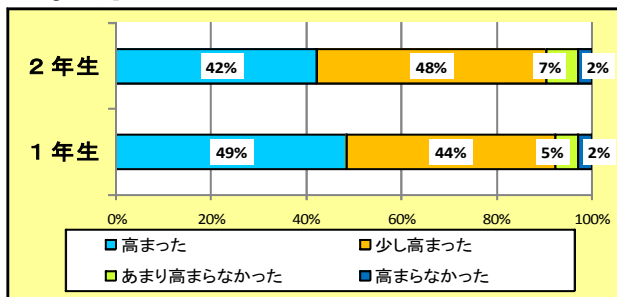
⑨『尾瀬学校』を学校の環境教育に生かしていくために必要なこと(一つ選択)



多くの学校が、尾瀬の自然と地域の自然とを結び付けて学習することの必要性を感じている。これまで取り組んできた環境教育との関連を図っていくことが大切であることが分かった。

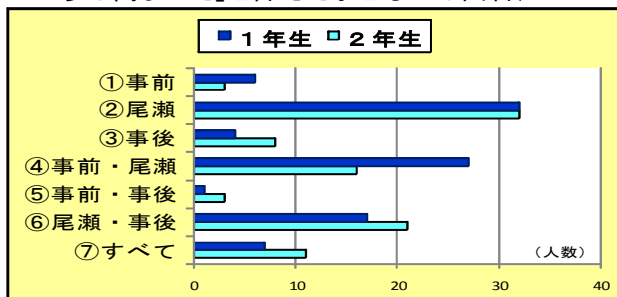
(3) 協力校1, 2年生の意識調査

①『尾瀬学校』の学習を通して、環境への意識は高まったか



「少し高まった」を合わせると、1, 2年生ともに、90%以上の子どもたちが「高まった」と回答している。2年生は昨年度の学習にもかかわらず、1年生とほぼ同等の結果であり、『尾瀬学校』の学習効果が持続していることが分かった。

②意識が高まった学習過程(前設問で「高まった」「少し高まった」と答えた子どものみ回答)

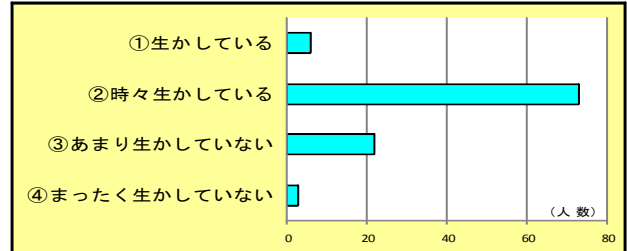


尾瀬当日の学習(②)が最も多く、次いで当日の学習と事前・事後学習を結びつけた学習(④⑥)で

あった。事前・尾瀬当日・事後の学習のつながりが、意識の高まりに結び付いていることが分かった。

【2年生のみへの設問】

③昨年度の学習で、環境保全のために取り組んでいこうと決めたことを今も生かしているか



①②を合わせると70%以上の子どもたちが「生かしている」と答えている。1年経過しても、時々であるが生かしている子どもたちが多く、設問①と同様に、昨年度の『尾瀬学校』の「事前・尾瀬当日・事後」の学習成果を知ることができた。

④「生かしている(取り組んでいる)」内容

(前設問で①②と答えた子どものみ回答)

- ・ゴミのポイ捨てをしない
- ・ゴミの分別
- ・使っていない電気を消す
- ・水を大切にしている
- ・残さず食べる
- ・シャワーを使いすぎない
- ・エアコンの適正温度設定

身近な取組であるが、子どもたちの環境保全への意識の高さを知ることができた。また、前設問③で「あまり・まったく生かしていない」と答えた子どもたちの理由としては「ふだん環境を意識していないから」「忘れてしまう」「分かっているけど実行できない」であった。

【1年生のみへの設問】

⑤環境学習を通して、今後、実生活に生かしていこうとしていること

- ・水、電気を無駄にしない
- ・ゴミ拾いをする
- ・リサイクル活動に取り組む
- ・エアコンを使いすぎない
- ・シャワーを使いすぎない
- ・花や生き物を大切に
- ・洗剤を使いすぎない

1年生も2年生と同様の取組をしていこうと考えていることが分かった。子どもたちは、環境保全のための様々な取組を知っており、実行していこうとする意識の高さを知ることができた。

## IV 調査結果を生かした教育実践

### 1 調査結果の考察

#### (1) 「これまでの環境教育」への取組から

各学校ともに様々な形で環境教育に取り組んでおり、子どもたちの姿から‘環境への意識’の高まりを感じている。しかし、その意識が日常生活での実践力までには高まっていないという課題がある。子どもたちは、リサイクル活動や清掃活動に熱心に取り組んではいるが、それらが子どもたちの自主的な活動ではなく、取組にマンネリ化を感じている学校が多いという実態も見られた。以上のことから、子どもたちの‘環境への意識’を実践力へと高めていくためには、これまで取り組んできた環境教育と『尾瀬学校』の学習を計画的に結び付けていくことが必要であると考えます。

#### (2) 『尾瀬学校』を生かした環境教育への取組から

##### ○「事前学習」

各学校とも様々な学習に取り組んでいる。しかし、‘指導時間の少なさ’を課題としている学校が多く、「事前学習」の充実はあまり図られていないと考える。また、子どもたちの課題設定が難しいという意見も多い。これは、課題設定が思うように進まず、単に尾瀬の調べ学習に終始してしまうということだと考える。そのため、『尾瀬学校』の学習を環境教育に結び付けていく課題のパターンを作り上げていく必要がある。そこで、ガイドが実施校を訪問して行う‘事前学習’を生かし、ガイドから環境問題や自然保護の話をしてもらうことで、子どもたちの課題設定やその後の環境教育につなげていくことができるはずである。以上のことから、ガイドによる‘事前学習’の充実を図ることで、少ない指導時間の中でも効果が上がる学習を展開できると考える。

##### ○「尾瀬当日の学習」

ガイドの存在が非常に大きいことがうかがえる。特に、「事前学習」でガイドと十分な連携を図っておくことが「当日の学習」の充実へとつながっていくため、当日までに学校側とガイドとが十分な打合せを行っておく必要がある。その時に、学校側の考えや子どもたちに身に付けさせたい力などを伝えておくことが大切である。当日は尾瀬の草花などの自然に関する話はもちろん、尾瀬の環境対策なども解説してもらうことにより、「事後学習」での課題解決学習や環境教育へと広がっていくと考える。また、雨天時の対応も大きな課

題であるため、「事前学習」時にガイドとその対応を決めておく必要があると考える。

##### ○「事後学習」

「事前学習」で設定した課題解決に向けた学習が主となっている。子どもたちは「尾瀬当日の学習」で、課題解決のための資料を得ている。これは「事前学習」で課題設定がしっかりとできていることが前提となる。つまり、「事前学習」から「事後学習」までの一連の学習指導計画が確立していることが重要であり、これは「尾瀬学習プログラム」の内容を充実して欲しいという最大の希望事項でもある。しかし、これだけでは環境教育との関連を図ったり、環境保全のための実践力へとつなげたりすることが難しいという大きな課題がある。子どもたちが課題解決学習を通して、環境問題や環境保全のために何ができるかを考え、行動に移していけるような「事後学習」の充実、言い換えれば「尾瀬当日の学習」を環境教育へと結び付けていける「事後学習」の充実を図ることが重要であると考えます。

##### ○他教科や道徳との関連、外部機関との連携

教科との関連が図られていない学校も多く存在しているが、無理に図ろうとするのではなく、理科の植物の働きと関連付けるなど、様々な学習機会を通して、環境問題に触れていくことが大切であると考えます。このことが、「事前・事後学習」はもちろん、その後の環境教育にも大きな影響を及ぼすと考える。また、多くの学校が社会教育施設や県の事業との連携を望んでいるという実態がある。そのため、環境教育の視点から、その有効性や活用方法を示すことで、連携も容易になり、各学校の環境教育の推進に役立つものと考えます。

##### ○『尾瀬学校』と環境教育

『尾瀬学校』が各学校の環境教育の推進のために果たしている役割には多大なものがあることがうかがえる。しかし、『尾瀬学校』の学習を地域の環境と結び付けていくことやこれまで取り組んできた環境教育との関連を図っていくことが難しいという大きな課題が存在している。大切なことは、『尾瀬学校』の学習を一つのきっかけとして、子どもたちがふだん、学校で取り組んでいる身近な環境問題に目を向け、環境保全のために自分たちにできることを考え、実行していくことである。そのための方向性や方策を示していくことが、今後の『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進に向けて不可欠であると考えます。



### (3) 協力校の1, 2年生の意識調査結果から

多くの子どもたちが、「事前学習」から「当日の学習」、そして「事後学習」までの三つの一連の学習を通して、環境への意識を高めている。また、子どもたちの環境についての知識は豊富であり、環境問題や環境保全のために、行動しようとする意識にもかなり高いものがある。これは、学校のこれまでの環境教育の成果でもある。その意識を持続させ、実際に行動に移していくためには、『尾瀬学校』とこれまでの環境教育を効果的に接続していくことが必要であり、これが実践化につながる環境教育の取組である。子どもたちの身近な生活場面から取組・活動が始められるような環境教育を各学校で推進していくことが大切であると考えます。

## 2 分析・考察結果のまとめ、活用

### (1) 分析・考察結果のまとめ

分析・考察結果から、実施校の課題と要望は、以下の五点にまとめることができる。いずれも、『尾瀬学校』の学習と環境教育との関連が図りにくいという共通の課題を含んでおり、その解決のための要望である。

- ・総合的な学習の時間での実施が多数であるため、環境教育に結び付いた課題設定から課題解決までの一連の学習指導計画の提示
- ・環境教育の実践力へと結び付く学習活動例の提示
- ・環境教育の観点を取り入れたガイドとの連携方法の提示
- ・環境教育の推進につながる社会教育施設、県の事業など、外部機関との連携及び活用方法の提示
- ・環境教育の観点を取り入れたワークシートの提示

### (2) 活用の基本方針

分析と考察で明らかになった課題と要望を踏まえ、今後の『尾瀬学校』を生かした環境教育の推進に役立つ内容を取り入れた学習計画「尾瀬KAN」を作成し、提言する。

### (3) 活用の具体策: 学習計画「尾瀬KAN」の作成 ア 目的と内容

『尾瀬学校』の学習を環境教育へと結び付けていくために、「事前・事後学習」と「尾瀬当日の学習」の効果的なつながりを示した学習活動例、社会教育施設・県の事業との連携・その活用方法などを組み入れ、学習計画を作成する。

### イ 構成(図3参照)

- ・「事前・尾瀬当日・事後」の三つの学習のつながりに視点を当てた学習計画  
(学習上の注意点・ポイントの提示)
- ・課題設定から課題解決につながる課題追究の活動例(学習活動・リサイクル活動例)  
(実践化を図るためのエコチェックシート)
- ・外部機関との連携・その活用  
(自然史博物館、ぐんま昆虫の森、移動尾瀬自然教室、エコムーブ号、フォレストリースクール、尾瀬高校、企業[東京電力]、尾瀬ぶらり館)
- ・他教科、道徳との関連  
(環境教育との関連が図れる単元・題材)
- ・ガイドとの連携Q&A
- ・雨天時の対応Q&A
- ・「事前・尾瀬当日・事後」の三つの学習ごとに活用できるワークシート①②③  
(小・中学校別)

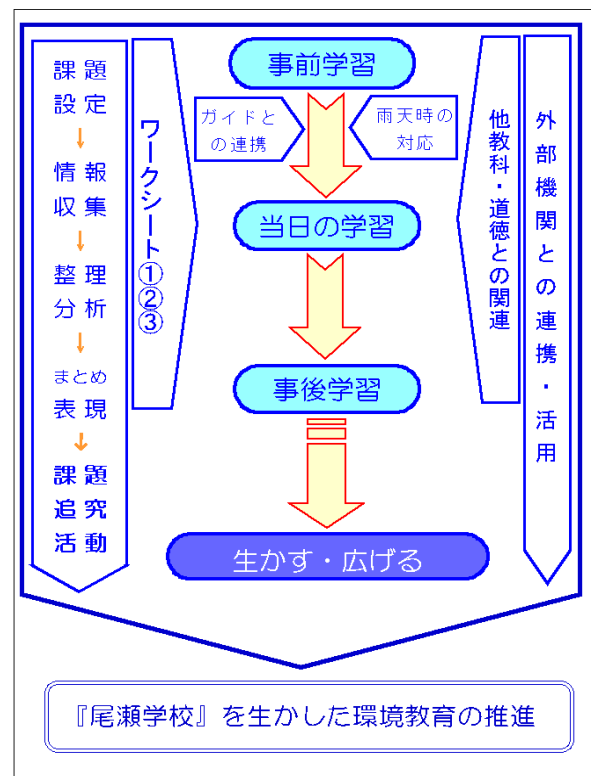


図3 学習計画「尾瀬KAN」構成図

### ウ 体裁

学習計画「尾瀬KAN」の体裁は、A4版74頁(その内、調査項目結果一覧部分26頁)とする。その内容の一部を次頁図4に示す。

(中心を基本の学習計画として、その具体的な内容などを両脇に示す。矢印は学習計画内の具体的な内容が示されている頁を指し示している。)

